

モジュール1

虐待の基礎的理解 ～発生メカニズムと子どもが被る影響～

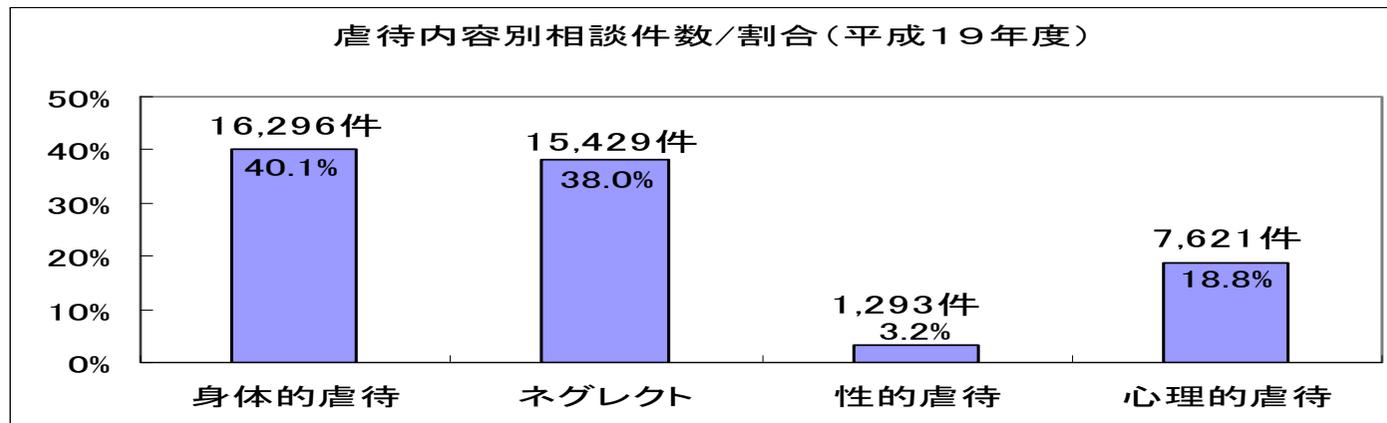
児童虐待とは何か

児童虐待

～ 法律では、

保護者がその監護する児童に対して行う、
4種の虐待行為を、「児童虐待」と定義。

- ①身体的虐待
- ②性的虐待
- ③ネグレクト(保護の怠慢)
- ④心理的虐待



【児童虐待とは何か】

① 身体的虐待

児童虐待防止法

児童の身体に外傷が生じ、又は生じるおそれのある暴行を加えること

- 外傷の種類はさまざま（切り傷、擦り傷、火傷、内出血……）
- 外傷は外からは見えにくかったり、普通に生活していれば怪我を負いにくい部位に生じていたりすることもある

【児童虐待とは何か】

② 性的虐待

児童虐待防止法

児童にわいせつな行為をすること又は児童をしてわいせつな行為をさせること

- 直接的な性行為だけが性的虐待ではない
- 知っていながら放置することも虐待(ネグレクトに該当)

【児童虐待とは何か】

③ ネグレクト

児童虐待防止法

保護者としての監護を著しく怠ること

- * 児童の心身の正常な発達を妨げるような著しい減食又は長時間の放置
- * 保護者以外の同居人による虐待行為の放置
など

- 子どもの年齢や能力、家族の生活形態などによって判断はわかれる
- 学校現場には疑いをもちやすい虐待

【児童虐待とは何か】

④ 心理的虐待

児童虐待防止法

児童に著しい心理的外傷を与える言動を行うこと

- * 児童に対する著しい暴言又は著しく拒絶的な態度
- * 児童が同居する家庭における配偶者に対する暴力
など

- ドメスティックバイオレンスを目撃していることは心理的虐待

虐待とは何か

- 虐待とは、家庭内の大人から子どもへの不適切な「力の行使」
 - ～ 家庭内の大人とは「親」に限らない

※ しつけと虐待の違い

- － 何をしたら誉められ、何をしたら罰せられるのか、子どもにも理解し、予測できる「しつけ」
- － 大人の気分や、理解しがたい理由で罰せられる「虐待」

何が虐待を招くのか

(虐待発生のメカニズム)

- ①保護者の要因
- ②子どもの要因
- ③家庭の要因
- ④社会全体の要因

【何が虐待を招くのか】

①保護者の要因

～虐待に追い詰められていく背景

- 経済的な問題などによる生活基盤の弱さ
- 育児以外のさまざまなストレス
- 望まない妊娠など、育児に対するさまざまな準備不足
- 保護者自身の精神疾患や発達障害

【何が虐待を招くのか】

①保護者の要因

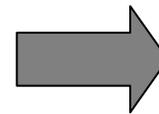
～ 虐待する保護者に多く見られる特徴

- 子どもに対する不正確な認知
 - － 子どもの独立した人格を理解しない
 - － 子どもとは言うことを聞く生きもの、と考える
 - － 子どもの発達を平均以下に見てしまう
 - － 子どもへの非現実的な期待
- 子どもへの依存と裏切られ感
 - － 保護者自身の愛情飢餓体験
 - － 依存と表裏一体の衝動的な攻撃
- しつけの手段としての体罰ポリシー
- 社会的な未成熟さ

【何が虐待を招くのか】

② 子どもの要因

- 出生直後のさまざまな疾患
- さまざまな障害の存在
- 容貌などの外見的特徴
- 性別
- 親に対する態度



**親の受け止め
こそが問題**

【何が虐待を招くのか】

③家庭の要因

～ 親子間のコミュニケーションの歪み

「夫婦」は価値観や生活のやり方を
すり合わせて「両親」になる準備をする

- 夫婦役割と両親役割のバランスの崩れ
- 子どもとのコミュニケーションの歪み

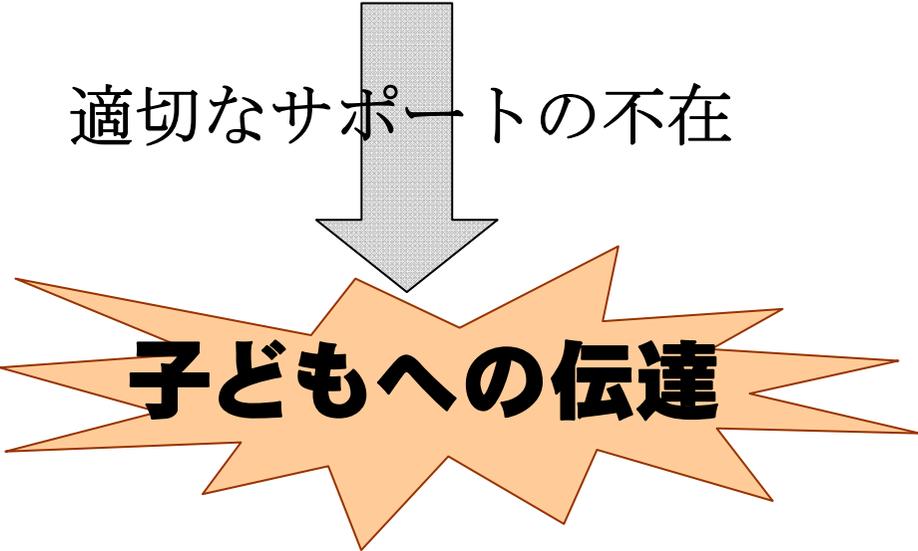
【何が虐待を招くのか】

③家庭の要因

～ 保護者自身のそだちの影響
(虐待の世代間伝達)

・ 保護者自身のそだちの問題

適切なサポートの不在



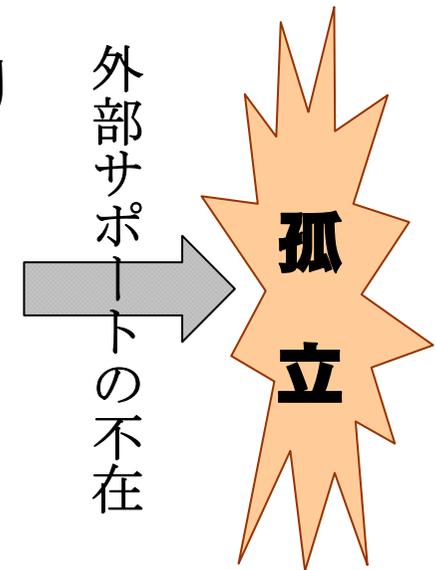
子どもへの伝達

【何が虐待を招くのか】

③家庭の要因

～ 外部のネットワークからの孤立

- ・ 親族、近隣、友人、職場等とのつながりが適切に保たれていない
- ・ 家庭内に、役割関係上・コミュニケーション上の困難を増しやすいう要因がある
(母子・父子世帯、複合世帯等における困難など)



※ 虐待は「家族であり続けようとする姿」

>>> 保護者を責め立てるだけでは、解決にならない。

虐待による子どもへの影響

☆子どもへの影響について考えていくために

- 子どもから見たしつけと虐待

- 大人の行動を、

- * 子ども自身の行動により統御できる → 「しつけ」

- ～「自分で片付け」しなかったら叱られる／していれば叱られない。

- * 子ども自身の行動により統御できない → 「虐待」

- ～叱られる・叩かれる・無視される。自分ではどうすることもできない。

- 子どもの理解への出発点

- 虐待は、子どもにとって「言語を絶する体験」

- >>> 「大変さへの理解」を共有すること。

【虐待による子どもへの影響】

虐待環境への適応

虐待環境

— いつ虐待にさらされるかわからない不安と緊張に包まれた環境

～ 乳幼児にとって、家庭は世界のすべて

→ 子どもは虐待環境に適応する

【虐待による子どもへの影響】

「虐待適応」の3つの源

- 虐待環境に対する当然の防衛反応
→理解はできるが過剰な言動
- 虐待環境での特異的な学習
→理解しがたい逸脱した言動
- 適切な学習機会の逸失
→アンバランスなソーシャルスキル

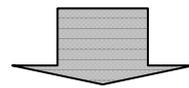
【虐待による子どもへの影響】

虐待を受けた子どもにとって 学校とは？ 教師とは？

- 虐待環境への適応は、一般環境への不適応

※虐待環境に適応した子どもが、学校に入ったとき

- 学校も、当然、虐待環境であるに違いないと思ひこむ。
- 教師も、自分に虐待を加える大人だと認知する。



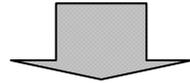
- リミットテストイング（試し行動）という反応

～ “どこまでしたら虐待を受けるか” を試そうとして、ことさら叱られるようなことをする。

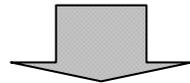
（→ 学校の集団生活の中での「問題児」視）

虐待の影響からの脱却

- 学校を「非虐待的な環境」と理解する



- 自らの虐待体験との向き合う



- 自己コントロールを回復する

虐待の影響を脱けるまでには、長い時間と
関係者・関係機関による継続的なサポートが必要